

北海道の道路整備について

北海道部会提出

北海道は、我が国最大の食料供給地域であり、良質な農水産品の国内安定供給に貢献しているほか、道産食品の海外への輸出拡大も推進しているところである。こうした中、物流の効率化や、生産性の向上に欠かすことのできない高規格幹線道路は、着実に事業進捗が図られているものの、ネットワークとしては未だ脆弱であるといえる。

更に、本道は豪雪や暴風雪など冬期間における厳しい気象条件、また大雨、地震、津波などの自然災害時に発生する交通障害、多発する交通事故など、様々な課題を抱えているところである。

特に、平成 28 年 8 月の台風被害においては、いち早く機能回復した道東自動車道が、道東と道央を結ぶ唯一の命綱として重要な役割を果たしたものであるが、現在の暫定二車線では、災害時や事故時において、安定した人流・物流の確保に不安が残ることが浮き彫りになったところである。

国においては、「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」を推進し、安全・安心の確保のために高速道路等の整備を進めており、道東自動車道を含む全国の高規格道路のミッシングリンクの解消や、暫定二車線区間について課題の大きい区間を優先整備区間として選定し、四車線化を進める等、道路ネットワークの機能強化にむけて、事業を着実に推進されていることは評価できるものの、北海道経済の要である農林水産業・食関連産業のさらなる振興を図るとともに、激甚化・多様化する災害に対応し、道民の安心・安全な生活を守っていくためには、高規格幹線道路ネットワークの構築が不可欠であることから、北海道の計画的・体系的な道路整備に関し、引き続き特段のご配慮を賜るよう要望するものである。

記

1. 高規格幹線道路について、着手している区間の早期開通はもとより、未着手区間について、早期にその着手を決定すること。
2. 自然災害時等に発生する広域交通の寸断や交通障害を回避するため、災害に強い道路の整備を推進すること。
3. 我が国最大の食料供給地域の一翼を担う道東圏から道央圏への人流・物流の機能強化に加え、災害時の緊急輸送路としての多重性・代替性（リダンダンシー）を安定的に確保するため、優先整備区間に選定されている道東自動車道の千歳恵庭 J C T～十勝清水 I C 間について、早期の全線四車線化を図ること。